

2019 年度事務局報告

2019 年度の体制・ネットワーク

【事務局スタッフ】

常勤スタッフ：1名（石原）

アルバイトスタッフ：3名（露木、小川、西島）

ボランティアスタッフ：6名（会計：富田・望月、会員：山本、Web／広報：長野・長峰・浦山）

インターン：2名（中園・森田）

ドットジェイピーインターン：2名（土井、水上）

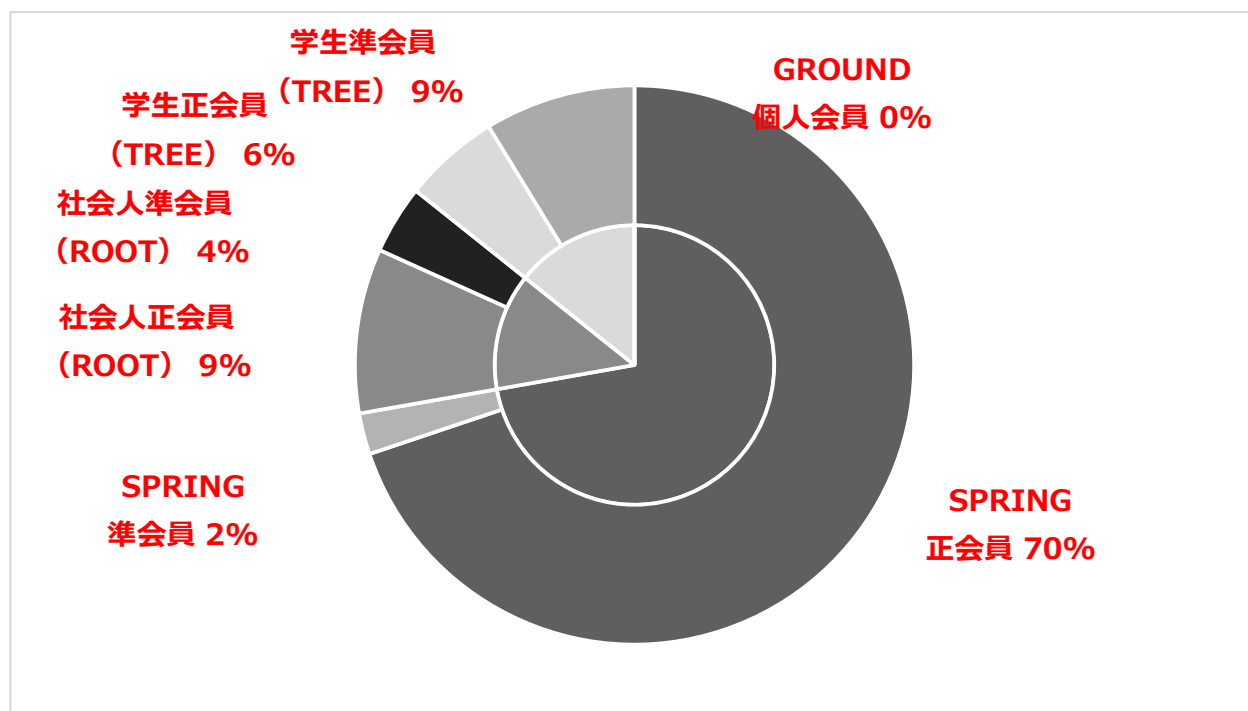
【会員】

会員種別	2019 年度	2018 年度
SPRING 正会員	88	100
SPRING 準会員	3	3
社会人 (Root) 正会員	12	11
社会人 (Root) 準会員	5	9
学生 (Tree) 正会員	7	7
学生 (Tree) 準会員	11	11
賛助会員個人(Ground)	0	1
合計	126	142

昨年と比べて SPRING 会員は 12 名退会し、会員数は 103 名から 91 名に。OB/OG 会員との関係強化や情報共有に力を入れるとともに、会員サービスの充実をはかり、会員数の安定および増加を目指します。

マンスリーサポーターは 8 名になりました。

(3月31日時点)



【役員】

理事

氏名	所属	担当
田川道子	会社員	エコ貯金プロジェクト/Fair Finance Guide Japan
石原遼平	A SEED JAPAN	事務局長/プロジェクト全体統括
濱田恒太郎	会社員	代表/エネルギー政策チーム
三本裕子	日本 NPO センター	組織基盤
江口健介	環境パートナーシップ会議	組織基盤
西島香織	A SEED JAPAN	核ごみプロセスをフェアに！プロジェクト

監事

矢口拓也	会社員
------	-----

【賛同・協力案件】

5月17日 「エシカルバナナキャンペーン」賛同

5月24日 「H.I.S パーム油発電反対」署名

6月10日 「Global People's Action in Yokosuka 横須賀石炭火力発電所計画地前」賛同

7月25日 共同声明「Fridays For Future 気候危機に対する日本の若者の運動を支持します
～9月国連サミット前グローバル気候マーチに向けて～」賛同

【ネットワーク加盟】

- ・パワーシフトキャンペーン／運営団体
- ・e シフト／運営団体
- ・市民電力連絡会／会員
- ・アースデイ東京実行委員会／実行委員
- ・Japan Youth Platform for Sustainability(JYPS)
／協力団体
- ・「持続可能なスポーツイベントを実現する NGO/NPO 連絡会
(SUSPON) 」SUSPON (サスポン)
: Sustainable Sport NGO and NPO Network／加盟団体
- ・SDG s ジャパン／正会員
- ・ドット・ジェイピー／会員
- ・グリーン連合／正会員
- ・石炭火力を考える東京湾の会/賛同団体
- ・グローバル気候マーチ/賛同団体
- ・Fair Finance Guide Japan／実行委員
- ・気候ネットワーク／会員
- ・消費から持続可能な社会をつくる市民ネットワーク
／幹事団体
- ・認定 NPO 法人振興会／会員
- ・NGO 非戦ネット／賛同団体
- ・日本 NPO センター/会員
- ・エシカルケータイキャンペーン実行委員会
／賛同団体
- ・SDG s 市民社会ネットワーク／正会員

トピックス

【Fridays For Future/グローバル気候マーチへの参画】

2019 年度に加盟し、賛同団体として、グローバル気候マーチの広報活動、当日の運営に携わりました。

グローバル気候マーチは、Fridays For Future International が学校ストライキに大人も参加できるように始まったもので、全世代型のグローバルストライキになります。9 月 20 日に開催した第 1 回のグローバル気候マーチは、全世界で 185 か国 760 万人以上が参加し、政府に対して積極的に気候政策を求めるアクションをしました。11 月 29 日に開催された第 2 回のグローバル気候マーチは、全世界では、157 か国が参加しました。国内では、25 都道府県 28 か所で全国 2000 人以上の方々に参加し、その中で東京で行われたマーチは、約 600 人の若者や大人が「気候危機」への警鐘を呼びかけ、東京都議会に対して「気候非常事態宣言」の決議を促しました。

<https://ja.globalclimatestrike.net/>

【石炭火力を考える東京湾の会への参画】

石炭火力を考える東京湾の会は、東京湾岸に新增設される石炭火力発電所の問題に取り組む、市民グループの連絡会になります。建設計画地域である、蘇我、市原、袖ヶ浦、横須賀の 4 つの市民グループと気候ネットワーク、FoE japan、グリーンピースジャパン、パタゴニアと共に活動を行っています。

現在では、主に神奈川県横須賀石炭火力発電所の新設・稼働停止を政府に呼びかける活動を行っています。昨年の 7 月からは横須賀石炭火力発電所の新設・稼働に関する行政訴訟を行っています。さらに、Fridays For Future Yokosuka のメンバーと共に発電所停止を求めるアクションを行い、小泉環境大臣に呼びかける活動も行っています。

<https://nocoal-tokyobay.net/>

【会計システムの簡略化への試み】

会計作業の簡略化の一環として、オンライン化を目指し、ネットバンクの楽天銀行への口座開設やクラウド会計ソフト freee への登録をいたしました。実用化には至れませんでした。今後の事務局体制や社会情勢を鑑み、積極的に取り組んでいければと考えています。なお、楽天銀行の選定は、社会性や利便性を考慮し、他ネットバンクとの比較検討の上、決定した。

【事務局長の退任及び、事務局長代理の就任】

2020 年 3 月の前事務局長 石原の退任・転職に伴い、4 月 1 日より、パートタイムスタッフの小川が事務局長代理に就任しました。

<代表理事濱田より一言>

2021 年、来年で 30 周年を迎える A SEED JAPAN。節目を迎える中で、活動のあり方、組織としてのあり方を大きく変えていく必要性に直面しています。2020 年は、これまでを俯瞰しつつも、これからに重きを置いて、今必要なことをやっていく。やっていく中で、2020 年の先の展望を見つけ、かたちにしていきたいと思っています。環境問題や社会問題の構造そのものを見据えて行動していくというあり方や視点を大事にしつつ、A SEED JAPAN が培ってきた、築いてきたつながりや関係性を存分に発揮し、様々なかたちで関わるができる組織にしていきたいと思っています。そして、組織であるからこそその強みが活かされるような、そんな場や機会を創っていきたくと思っています。総会では、2020 年の議論をしていく始まりの機会にしたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

＜事務局長代理小川より一言＞

A SEED JAPAN 会員の皆様

2020年4月より、事務局長代理に就任いたしました、小川暁平と申します。学生時代より、ボランティアとして関わり、数年のブランクを経て、2018年よりパートタイムの事務局スタッフとして、関わらせていただいております。正直に申し上げておきますと、私は、歴代の事務局長及び事務局スタッフの方々と違い、活動には基本的に関わっておりません。同時に、今後の方針に関わる議論にも直接的には、参加しておりません。それが、今のA SEED JAPANの現状を、よく表しているのではないのでしょうか。

今の理事は、おそらく活動をしたくて理事を続けているわけではなく、存続させるために、担ってくれているのだと思います。もちろん、当団体に魅力や可能性を感じているからこそ、忙しい中で関わり続けているのでしょう。

その上で、会員の皆様一人ひとりに何ができるのか。もちろん、できる範囲という前提で。人手という意味で言えば、先細りし続ける中で、コミットメントしてくれるというのは、非常に欲しているのであろうが、意見や提案というだけでも、非常に嬉しいのであろう。それでさえ、非常に稀になってしまっているのであるから。そういう意味で、行動として何かをする以前に、当事者意識という感覚が非常に重要になってくるのではないのでしょうか。それが、皆様が掲げ続けている参加型社会の一側面なのではないのでしょうか。

根本的には、赤字決算の何が問題なののでしょうか。現状において、重要な事柄は別にあるのではないのでしょうか。ただ単に、黒字化できる組織を目指しても、今のasjは、成長できないのであろうから。

解決策として、パッと思い付くものは、

①基本的に有給スタッフを置かない。

②もしくは解散。

③中途半端な財産を残すくらいなら、短期決戦で、人件費に投入して、人を募集し、次代のミッションを作る。くらいでしょうか。

個人的には、③でしょうか。

③だけは、他の後には、できないでしょうから。

活動報告

2019年度イベント一覧

2019年4月

- エコ貯金** 20～21日 アースデイ東京 2019 出展にてエコ金融エリア運営
(全体来場者数：11万人)
(参加者：露木、山本、河上、中尾、大村、永井、富田)
(参加理事：江口、石原)
- エネルギー政策** 20～21日 アースデイ東京 2019 出展にて気候変動エリア/パワーシフトエリア運営
(全体来場者数：11万人)
(参加者：露木、渡部)
(参加理事：石原)

2019年5月

2019年6月

- エコ貯金** 22～23日 G20 ユースサミット@神戸市外国語大学に参加
(参加者：露木、山本、村上、中尾、渡部)
(参加理事：石原)
- エネルギー政策** 26日 GLOBAL PEOPLE'S ACTION IN YOKOSUKA 横須賀石炭火力発電所計画地前アクションに参加
(参加者：露木)
- チーム横断** 29日 NPO 法人ドットジェイピー主催イベント「NPO CAFE」に登壇
(参加者：露木)

2019年7月

2019年8月

- 核ごみ** 9日 プロジェクトキックオフイベント開催
(参加者：西島、露木)
(参加理事：石原)

2019年9月

- チーム横断** 8～11日 第1回生物多様性日中ユース交流ミーティング参加
(参加者：露木)
- チーム横断** 15日 国際平和映像祭出展
(参加者：露木)
(参加理事：石原)
- チーム横断** 20日 グローバル気候マーチ運営
(日本全体参加者数：23都道府県 6000人以上)
(参加者：露木、土井)
(参加理事：石原)
- エコ貯金** 21日 社会に優しいお金の預け方 ～賢い市民の家計ポートフォリオとは？～開催
(参加者：露木)
(参加理事：田川、石原)
- エコ貯金** 29～30日 グローバルフェスタ 2019 出展
(全体来場者数：約183,700人)
(参加者：露木、山本、中園、渡部、舎川、土井)
(参加理事：田川)
- エネルギー政策** 29～30日 中津川 THE SOLAR BUDOKAN 2019 に参加
(参加理事：石原)

2019年10月

- チーム横断** 5日 サステナブルナイトマーケットに出展

第1号議案

(参加者：露木)
(参加理事：石原)

核ごみ

- 6日 CF キャンペーンイベント「核燃料サイクル計画」映画制作プロジェクトチームが贈る「そもそも再処理、再稼働、核燃料サイクルって何？ 今私たちが「核燃料サイクル計画」に注目するワケ」開催
(参加者：西島)
(参加理事：石原)

チーム横断

- 同日 【法政大学大原社会問題研究所】報告会に登壇
(参加理事：石原)

工口貯金

- 10日 明治学院大学 講義 ～お金の流れで良い社会と財産づくりを！～
(参加理事：石原、田川)

2019年11月

エネルギー

- 10日 共催セミナー「なぜ私たちは今、気候非常事態宣言を求めているのか」開催
(セミナー参加者数：67名)
(参加者：露木、山本、舎川、奥山)
(参加理事：石原)

政策

工口貯金

- 20日 共催セミナー【現地報告会】リチウムイオン電池の裏側でー ニッケル採掘に伴う環境破壊・人権侵害の真実
(セミナー参加者数：19名)
(参加者：露木)
(参加理事：石原)

チーム横断

- 29日 第2回グローバル気候マーチ運営
(日本全体参加者数：25都道府県 28か所 2000人以上 東京参加者数：約600人)
(参加者：露木)
(参加理事：石原)

2019年12月

工口貯金

- 5日 共催セミナー【インドネシア NGO・弁護士による現地報告】腐敗にまみれたインドネシア石炭火力～私たちの預金も流れている?!～
(参加者：露木)
(参加理事：石原)

チーム横断

- 23日 横須賀石炭火力発電所新設・稼働に関する行政訴訟 第2回期日に参加
(参加者：露木)

2020年1月

2020年2月

エネルギー

- 11日 パワーシフト・シンポジウム～自然エネルギーで社会を元気に！～
(参加者：露木、渡部、水上)
(参加理事：石原)

政策

チーム横断

- 15日 横浜アクションアワードに審査員参加
(参加理事：石原)

エネルギー

- 25～27日 気候非常事態宣言都市・名古屋市現地調査
(参加者：露木、小川、奥山、水上、宮崎)
(参加理事：石原)

政策

2020年3月

報道採録

- | | | |
|------|--------|--|
| エコ貯金 | 6月15日 | 東洋経済 『三菱 UFJ が新規融資停止 逆風強まる石炭火力発電「地球温暖化に手を貸している」。批判が高まり、邦銀に変化が。』 |
| エコ貯金 | 7月2日 | 「環境・持続社会」研究センター（JACSES）プレスリリース 『米国で初めて大手保険会社が石炭事業の保険引き受け及び投融資の中止を表明』 |
| エコ貯金 | 7月8日 | 東洋経済 『住商が「フィリピンバナナ」から撤退したわけ～労組が労働条件改善求めてスト、殺傷事件も』 |
| エコ貯金 | 7月9日 | デイリー新潮 『「GACKT」宣伝の甘熟王バナナ、フィリピン工場は労働者が殺害される劣悪な環境』 |
| エコ貯金 | 12月5日 | サステナブル・ビジネス・マガジン [ONLINE] alterna 『インドネシアの石炭発電所事業で汚職、邦銀が融資』 |
| エコ貯金 | 12月6日 | Waseda Chronicle 『インドネシア石炭火力汚職事件 現地の環境 NGOと弁護士が会見』 |
| エコ貯金 | 12月26日 | アジア経済新聞 第54号【インタビュー】「環境・持続社会」研究センター（JACSES）田辺有輝氏：チレボン石炭火力発電2号機建設汚職と気候変動問題を語る |

第1号議案

2019年度SEED PLAN評価

チーム名	エコ貯金プロジェクト/ Fair Finance Guide
担当理事/リーダー	石原遼平・田川道子
該当時期	2019年4月～2020年3月 末
チーム人数	5名

ABCD評価の目安	
A	目標以上の達成ができた
B	ほぼ目標通り達成できた
C	一部しか達成できなかった
D	達成とよぶにはほど遠い進捗状況である

【A : SEED PLAN】

項目	目標	具体的な指標	ABCD 評価	コメント
●長期目標	自然環境と人間が持続可能な形で共存・共生し、フェアで公正な社会づくりに貢献する金融のしくみを実現する。			
●短期目標 (1)	Fair Finance Guide Japanの運営団体（A SEED JAPAN、アジア太平洋資料センター、「環境・持続社会」研究センター、APLA）で協働しながら、Fair Finance Guide Japanの認知度を高める。			
→短期目標を達成するための実行手段	同上	1. FairFinanceGuideのFacebookいいね数を100増加させる 2. 銀行・保険会社へのメッセージを400通集める □ その為に下記事項を実施。□ □ ①ブース出展 3回□ ②勉強会・セミナー開催 2回□ ③SNSの活用	B	1. Facebookページへの「いいね！」：5184件（前年比+134件） SNSの活用はできなかったが、ブース出展、勉強会等を通じ、FairFinanceGuideについての認知度を向上させ、いいねを増やすことができた。 今年度は初めての出展として、神戸にてG20ユースサミット（@神戸市外国語大学）に参加。今まで交流のない他分野の団体なども知り合うことができ、とても有意義な2日間となった。 登壇した講義では、多くの学生に参加いただき、若い世代へFFGの概念を知ってもらうことができ、「大人になったらお金の流れを考えて行動したい」という感想も得られた。 ①ブース出展 4月：アースデイ東京2019（銀行へのメッセージ54通獲得） 6月：G20ユースサミット 9月：グローバルフェスタ出展（銀行へのメッセージ31通獲得） ②勉強会・セミナー開催 9月：企画（社会に優しいお金の預け方～賢い市民の家計ポートフォリオとは？～） 参加者：約30名 10月：明治学院大学法学部向け授業「持続可能な社会に向けて」講義 参加者：約170名 2月：横浜国際フォーラム「SDGs スタートアップ講座～私たちの暮らしを変える世界の社会問題から～」登壇 参加者：約30名 ③SNSの活用：未実行
→短期目標を達成するための実行手段	同上	銀行・保険会社へのメッセージを400通集める□	C	2. 銀行・保険会社へのメッセージ：85通□ 目標の数は達成できなかった。当年度は金融機関の石炭火力関連事業への投資撤退等の動きがしばしば見られ、市民への働きかけよりも、金融機関へ行動を促す方向へ重点を置いた点も、要因の一つだと考える。
●短期目標 (2)				
→短期目標を達成するための実行手段				

【B : SEED PLAN 以外】

●想定外の成果・前進	
●想定外の障害・つまづいたこと	

第1号議案

2019年度SEED PLAN評価

チーム名	エネルギー政策チーム
担当理事/リーダー	石原遼平
該当期	2019年4月～2020年3月末
チーム人数	6名(他、短期インターン1名)

ABCD評価の目安	
A	目標以上の達成ができた
B	ほぼ目標通り達成できた
C	一部しか達成できなかった
D	達成とよぶにはほど遠い進捗状況である

[A : SEED PLAN]

項目	目標	具体的な指標	ABCD評価	コメント
●長期目標	<p><上位目標></p> <p>供給されるすべての電気が、地域の自治や持続的な発展を損なわない方法で自然エネルギーによって発電され、消費される社会をつくること。</p> <p>・電力消費者が、地域の自治や持続可能な発展、将来世代の環境や人権に配慮した方法で発電される電力を、責任をもって選ぶ。(パワーシフトな電力会社を選ぶ人が増える。)</p> <p>・大手新電力が長期的な視点を持って電力を購入・配電する。</p> <p>・石炭火力発電所をめぐる過去の資料等を収集、整理、発表することで、のちの世代が過去から現在の課題を考察する場をつくる。</p>			
●短期目標(1)	パワーシフトを市民に促す。			
→短期目標を達成するための実行手段	<p>①「このデンキがヤバい」Webサイトアクセス数を伸ばす。</p> <p>②本Webサイトから再エネを重視した新電力会社への切替に進む人を増やす。</p> <p>③野外イベントでパワーシフト宣言者を募る。</p>	<p>年間5,000件。</p> <p>年間50名。</p> <p>年間50名。</p>	C	<p>*チームリーダーの交代等があり、体制を見直す必要に迫られる中での活動となりました。</p> <p>①同Webサイトについては、上記理由により維持管理さえ困難な状況になっており、目標達成できませんでした。</p> <p>②上記の通り、同ウェブサイトを活用した活動を制約せざるを得ない状況となり、こちらについてもコメントが難しくなっております。</p> <p>③アースデイ、中津川ソーラーパークなどについては例年通り参加することができました。一方で、パワーシフトキャンペーンのなかで宣言の収集という形から、「1億円キャンペーン」というものに移行したため、2019年度のチーム活動においても同キャンペーンの普及のために活動しました(スペースの関係でキャンペーン概要は割愛しています)。5月28日時点の集計では、パワーシフトした電気代：14,085,000円(156人)/1億円となっております。</p> <p>URL : http://power-shift.org/100m/</p>
●短期目標(2)	エネルギー生産現場からエネルギー供給問題を調査し、電力消費者・電力事業者に伝える。			
→短期目標を達成するための実行手段	<p>①昨年度おこなった現地調査時(広島県)に収集した資料のデジタルアーカイブ化。</p> <p>②昨年度にひきつづき石炭火力発電所および周辺地域を訪問し、資料収集につとめる。</p>	<p>現地調査の実施と、報告のWebサイト掲載。</p>	B	<p>*チームリーダーの交代等があり、体制を見直す必要に迫られる中での活動となりました。そのため、大きく活動の内容を変更し、2019年に勢いを増したFridays For Futureと協力して、自治体による気候非常事態宣言(CED)の必要性等の普及に努めることにしました。</p> <p>①自分たちがおもに活動の拠点とする東京都(都議会)によるCEDを求めるキャンペーンを実施しました。おもには都議会への請願提出にあわせた署名活動を実施し、結果として5,522筆の署名を集めました。</p> <p>詳細は右記レポートに記載しています。http://www.aseed.org/2019/12/7410/</p> <p>②11/10にFridays For Futureと共催でセミナーを実施しました。CEDへの関心の高さが伺え、50人規模の会場に立ち見ができるほどの方々に参加いただきました。</p> <p>http://www.aseed.org/2020/01/7450/</p> <p>③2月25日～27日には長崎県壱岐市への現地調査を行いました。上記CEDを日本で最初に行った自治体として同市が注目を集めており、②のセミナーにもすでに市職員にご登壇いただいております。現地では事務局スタッフ3名+ボランティアメンバー3名で市長や、海岸などのゴミ清掃を若者たちと実施しているNPOの方との対談、市として取り組んでいる再エネ事業の実態のヒアリングなどを行いました(報告会としてのセミナーはコロナ禍のため中止となりました)。</p> <p>http://www.aseed.org/2020/03/7523/</p>
●短期目標(3)	(3) パワーシフトキャンペーンと協力し、自治体や教育機関などへの電力調達状況のアンケートを実施			
→短期目標を達成するための実行手段	<p>本アンケートにおける目標については、自治体の電力調達状況を可視化することで、市民へのパワーシフト普及率を上げ、再生可能エネルギーへの認知度を上げる。</p>		B	<p>パワーシフト・キャンペーン運営委員会、一橋大学自然資源経済論プロジェクト、朝日新聞社、環境エネルギー政策研究所の共同の調査という形をとり、2019年6月～7月にかけ、都道府県、政令指定都市および再生可能エネルギー調達などで注目すべき市区町村を対象に、本庁舎等の電力調達状況や方針について調査を行いました。</p> <p>エネルギー政策チームもパワーシフトの一員として全国自治体へのアンケートに協力しました。A SEED JAPANとしては宮城県、埼玉県、千葉県、新潟県、愛知県を担当しました。</p> <p>詳細はこちら。http://power-shift.org/jichitai_report2019/</p>
●短期目標(4)	1～3を踏まえた総括的なシンポジウムを開催する。			
→短期目標を達成するための実行手段	<p>大手電力会社、大手新電力、地域の再エネ事業者、電力会社比較サイト担当者、ユース環境団体等を招き、シンポジウムを開催する。</p>	<p>参加総数80名規模</p>	B	<p>2/11に「自然エネルギーで社会を元気に！」と題してA SEED JAPANとパワーシフトの共催としてセミナーを行いました。左記のうち大手電力会社からの登壇は実現しませんでした。A SEED JAPANからもチームメンバー、Fridays For Futureという若者たちのグループによる登壇が実現し、非常に活気のあるセミナーとなりました。結果として、スタッフを含め約100名におよぶ参加者となりました。</p> <p>詳細はこちら。http://power-shift.org/tokyosymposium-200211-report/</p>

[B : SEED PLAN 以外]

●想定外の成果・前進	Fridays For Futureの盛り上がりを受け、青年団体であるA SEED JAPANとしても協力体制を敷くことになりました。その延長線上で上記の通りあらたな活動の機会が生まれたことは重要な成果だと考えています。
●想定外の障害・つまづいたこと	人員ふくめ活動を支える体制の構築が困難を極め、集中と選択を短期的に実施せざるを得ませんでした。

第1号議案

2019年度SEED PLAN評価

チーム名	核ごみプロセスをフェアに！プロジェクト
担当理事/ リーダー名	西島香織・石原遼平
該当時期	2019年4月～2020年3月末
チーム人数	4名程

ABCD評価の目安

A	目標以上の達成ができた
B	ほぼ目標通り達成できた
C	一部しか達成できなかった
D	達成とよぶにはほど遠い進捗状況である

【A : SEED PLAN】

項目	目標	具体的な指標	ABCD 評価	コメント
●長期目標	・原子力発電所の運転によって生じた使用済み核燃料の最終処分・管理方法の公正な決め方を確立すること。 (最終的には、第一次産業と再生可能エネルギーを中心とした、農村と都市が共生できる社会の創造に寄与すること) ・上記の確立することによって、農村と都市が共生できる社会を創造すること。			
●短期目標	原子力関連施設立地地域を視察し、「最終処分問題の立地問題化」と「核廃棄物の置かれている地域の実情と関連政策との乖離」について問題提起する。それと共に、「将来世代が単なる啓発対象と認識されている現状」に対して、将来世代を交えた院内会合およびキャンペーンを展開し、エネルギー政策の見直しを視野に入れた公正な処分プロセスの確立に寄与する。		C	今年度は、将来世代および政策立案・決定に関わる人々（行政・政治家等）に対し、当該問題を伝えるための映像制作を行った。（取材・監督はフリーライターの稲垣美穂子氏に、広報・会計はA SEED JAPANで分担）。
→短期目標を達成するための実行手段	(1) 文献調査・・・取材先に係る情報を収集する。 (2) 関連地域取材・・・青森県下北半島、北海道幌延町、福井県美浜町、小浜町、おおい町、高浜町、佐賀県唐津市	4月～文献調査、4.9反核熱の日@青森 取材 6月中旬 クラウドファンディング実施 7月下旬 幌延全国交流会 取材 11/23 11.23幌延デー 取材	B	10月中旬まで資金調達（クラウドファンディング）に集中したため、文献調査に取りかかれたのはそれ以降になった。また実質的な取材、インタビューは2020年2月ようやく動き出せた矢先、COVID-19の影響で2月中旬以降、取材を中断し、資料へのアプローチ範囲も制限されたため、当初想定していたスケジュール通りには動けなかった。□ 今年度は青森に4回、福井に1回、佐賀に2回伺い、青森では6名、佐賀で6名ほどお話を伺った。□
→短期目標を達成するための実行手段	(3) 映像制作	1月～ 映像制作	C	□ 取材先の方々と面識を重ね、信頼関係を構築したり関係する方々を紹介していただく事に重点を置いたため、当初のスケジュール通りには進まなかった。「核燃料サイクル」という問題をどういう角度をもって捉えるかについて考察できた点、そして、本プロジェクトの始めの一歩を踏み出した点において、対外的な成果物が少ないものの、収穫を得られたと考えている。□
→短期目標を達成するための実行手段	(4) 試写会の実施・・・4回程度を想定	その他、取材はインタビュー候補者と日程を調整しながら確定。	C	映像制作の取材開始時が遅れたため、試写会の実施にはいっていない。

【B : SEED PLAN 以外】

●想定外の成果・前進	クラウドファンディングにて、107名の支援者から1,172,000円の支援をいただいた。（目標達成率=58%） CFキャンペーンイベントを開催し、15名が集まった。タイトル：「核燃料サイクル計画」映画制作プロジェクトチームが贈る そもそも再処理、再稼働、核燃料サイクルって何？ 今私たちが「核燃料サイクル計画」に注目するワケ 開催@CAMPFIRE社内セミナールーム
●想定外の障害・つまづいたこと	資金調達面で、クラウドファンディングが目標の60%ほどであったこと。また「タゴニア助成金を申請したが落選したこと、自己資金としてより多くの寄付を集めることが必要になった。 covid-19の影響で、取材に大幅な遅れが生じたこと。